

宮崎国際大学における公的研究費の不正使用に係る調査等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規則は、宮崎国際大学（以下「本学」という。）における公的研究費の不正使用又は不正使用の疑いが生じた場合の調査等に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において「公的研究費」とは、運営費交付金、奨学寄附金、補助金、委託費等を財源として本学で扱うすべての経費をいう。

2 この規則において「研究者等」とは、本学の教職員その他の本学の公的研究費の運営及び管理に関わるすべての者をいう。

3 この規則において「不正使用」とは、故意又は重大な過失による、公的研究費の他の用途への使用又は本学の規程、法令並びに競争的研究費等の交付の決定の内容及びこれに付した条件等に違反した使用をいう。

(不正使用に関する通報等)

第3条 宮崎国際大学研究費管理・監査規程第9条により事務組織に設置されている通報窓口（以下「通報窓口」という。）を置く。

2 不正使用又は不正使用の疑いがあると思料する者は、前項に規定する通報窓口に通報又は情報を提供（以下「通報等」という。）するものとする。

3 通報窓口は、原則として通報した者及び情報を提供した者（以下「通報者等」という。）の氏名、所属、住所等並びに研究者等の不正使用の状況及びその内容等が明示されたものを受け付けるものとする。ただし、通報者等はその後の調査において氏名の秘匿を希望することができるものとする。この場合において、当該通報者等に対しての本規則に規定する通知は通報窓口を通じて行うものとする。

4 通報窓口は、匿名による通報等があったときは、研究者等の不正使用の態様及び内容が明示され、かつ、証拠書類等の添付により相当の信憑性があると思われる場合に限り、受け付けるものとする。この場合において、当該通報者等に対しての本規程に規定する通知は行わないものとする。

(報告等)

第4条 通報窓口不正使用に関する通報等があったときは、窓口担当者は統括管理責任者に、統括管理責任者は学長に速やかにその旨を報告しなければならない。

- 2 学長は、前項の報告に係る事案について予備調査が必要であると認めたときは、関連する部局長等の長又は部局長等の長に代わる者（以下「部局長等」という。）に予備調査を行わせることができるものとする。
- 3 関連する部局長等は、学長から予備調査を行うよう指示があった場合、当該通報等の信憑性等について調査するものとし、指示を受けた日から起算して 14 日以内にその結果を学長に報告するものとする。
- 4 学長は、第 1 項及び前項の報告に基づき、通報等を受付けた日から起算して 30 日以内に、通報等の内容の合理性を確認し調査の可否を判断するとともに、当該調査の可否を関係機関に報告するものとする。
- 5 報道機関、会計検査院その他の外部機関から指摘を受けた場合の取扱いについては、前各項の規程によるものとする。
- 6 学長は、前 2 項の規程に基づき、調査を実施することを決定したときは、調査の開始を通報者等に通知するものとし、調査を実施しないときは、調査しない旨をその理由と併せて通報者等に通知するものとする。

（調査委員会）

第 5 条 学長は、前条第 6 項において調査の実施を決定したときは、公的研究費の不正使用に係る調査委員会（以下「委員会」という。）を設置し、速やかに事実関係を調査させなければならない。

- 2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - （1）副学長のうちから学長が指名する者
 - （2）委員長が指名する教員 若干名
 - （3）本学の事務局長並びに事務部の部長のうちから委員長が指名する者 若干名
 - （4）学外の弁護士又は公認会計士等 若干名
 - （5）その他委員長が必要と認めた者 若干名
- 3 前項第 4 号の委員は、本学並びに通報者等及び被通報者と直接の利害関係を有しない者でなければならない。
- 4 委員会に委員長を置き、第 2 項第 1 号の委員をもって充てる。
- 5 第 2 項第 2 号から第 5 号までの委員は、委員長が委嘱する。

（守秘義務）

第 6 条 委員会の構成員その他本規則に基づき不正使用の調査に関係した者は、その職務に関し知り得た情報を他に漏らしてはならない。

(調査の実施)

- 第7条 委員会は、不正使用の有無及び不正使用の内容、関与した者及びその関与の程度、不正使用の相当額等（以下「不正使用の有無等」という。）について調査及び認定するものとする。
- 2 委員会は、調査の実施に際し、調査方針、調査対象、調査方法等について関係機関に報告し、又は協議しなければならない。
 - 3 委員会は、調査対象の研究者等（以下「調査対象者」という。）に対し関係資料の提出、事実の証明、事情聴取その他調査に必要な事項を求めることができる。
 - 4 委員会は、部局長等に対し、調査協力等適切な対応を指示することができる。
 - 5 委員会は、必要に応じて、調査対象者に対し公的研究費の使用停止を命ずることができる。
 - 6 通報者等は、通報等をしたことを理由として、人事、給与、研究又は教育上のいかなる不利益な取扱いも受けない。
 - 7 委員会の構成員その他本規則に基づき不正使用の調査に関係した者は、通報者等、調査対象者その他当該調査に協力した者の名誉及びプライバシーが侵害されることのないよう十分配慮しなければならない。

(調査への協力等)

- 第8条 調査対象者は、委員会による事実の究明に協力するものとし、虚偽の申告をしてはならない。
- 2 退職後においても前項と同様に取り扱うものとする。

(意見聴取)

- 第9条 委員会は、不正使用の有無等の認定を行うに当たっては、あらかじめ調査対象者に対し、調査した内容を通知し、意見を求めるものとする。
- 2 調査対象者は、前項の調査内容を通知した日から起算して14日以内に委員会に意見を提出することができるものとする。ただし、委員会が必要と認めたときは、意見の提出期間を延長できるものとする。
 - 3 前項の場合において、調査対象者から意見の提出があったとき又は意見がない旨の申し出があったときは、意見の提出期間を経過する前であっても次条に規定する認定を行うことができる。

(認定)

- 第10条 委員会は、前条第1項の調査内容に基づき、不正使用の有無等について認定を行うとともに、調査結果（認定を含む。以下同じ。）を学長に報告しなければならない。

- 2 学長は、前項の報告に基づき、調査対象者に対し、調査結果を通知するものとする。
(異議申立て)

第11条 調査対象者は、前条第2項の調査結果を通知した日から起算して14日以内に学長に異議申立てを行うことができるものとする。

- 2 学長は、前項の異議申立てがあったときは、学長の判断により委員会に対し、再調査の実施を指示することができるものとする。この場合において、異議申立ての趣旨が委員会の構成等その公正性に関するものであるときは、学長の判断により委員会の委員を変更することができるものとする。
- 3 前項の再調査の指示があったときは、委員会は速やかに再調査を行い、その結果を学長に報告するものとする。
- 4 学長は、前項の報告に基づき、異議申立てに対する決定を行い、その結果を異議申立て者及び委員会に通知するものとする。
- 5 学長は、再調査を実施しないことを決定したときは、再調査をしない旨をその理由と併せて異議申立て者及び委員会に通知するものとする。
- 6 異議申立て者は、前2項の決定に対して、再度異議申立てを行うことはできない。

(調査結果の報告)

第12条 委員会の委員長は、前条第1項に基づく異議申立てがなかった後、又は前条第2項による異議申立てに対し、同条第4項若しくは第5項の通知が行われた後、最終報告書を作成し、関連資料を添えて速やかに学長に提出しなければならない。

(措置)

第13条 学長は、前条の報告に基づき、その調査結果を通報者等、調査対象者、関連する部局長等に通知するとともに、関係機関に対しては、原則として通報等を受付けた日から起算して210日以内に、不正使用の発生要因、不正使用に関与した者が関わる調査対象制度以外の公的研究費の管理監査体制の状況、再発防止策、関係者の処分方針等必要事項を加えて報告書を提出しなければならない。

- 2 学長は、期限までに調査が完了しない場合であっても、関係機関に調査の中間報告を提出しなければならない。
- 3 学長は、調査の過程であっても、不正使用の事実が一部でも確認された場合には速やかに認定し、関係機関へ報告しなければならない。
- 4 前3項のほか、関係機関の求めに応じ、調査の終了前であっても、調査の進捗状況を報告、又は中間報告を提出しなければならない。
- 5 学長は、調査に支障がある等、正当な事由がある場合を除き、関係機関からの当該事案に係る資料の提出若しくは閲覧又は現地調査に応じなければならない。
- 6 学長は、前各項の措置により、当該関係機関から不正使用に係る公的研究費の返還命令を受けたときは、調査対象者に当該額を返還させるものとする。

- 7 不正使用の内容が私的流用である等、悪質性が高い場合は、必要に応じて法的措置を講ずるものとする。
- 8 学長は、前条による報告に基づき、不正使用が認められなかったときは、必要に応じて通報者等及び調査対象者への不利益発生を防止するための措置を講ずるものとする。

(調査結果の公表)

- 第14条 学長は、前条の規程による措置のほか、不正使用があったと認められたときは、合理的な理由のため不開示とする必要があると認めた場合を除き、速やかに調査結果を公表するものとする。この場合において、公表する内容は、氏名を公表することを基本とするとともに、その他の情報についても特に不開示とする必要があると認められる場合を除き、公表するものとする。
- 2 学長は、調査事案が学外に漏洩していた場合及び社会的影響の大きい重大な事案の場合については、必要に応じて当該調査の途中であっても中間報告として公表することができるものとする。

(委員会の事務)

- 第15条 委員会に関する事務は、総務部及び関係部局等の協力を得て、監査人及び研究不正・研究倫理等に関する対策委員会で行う。

(雑則)

- 第16条 この規則に定めるもののほか、公的研究費の不正使用に係る調査等の手続きに関し必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

- 第17条 この規程の改廃は、教育研究評議会の議を経て、学長が決定する。

附則

この規程は、令和3年10月1日から施行する。